

＜炎昼＞ようやく梅雨が明け、昼下がりの日向は体温を越えるばかりの暑さ、まさに“炎昼（夏の季語）”です。こんなときに思い浮かべる花はムクゲ、サルスベリそしてキョウチクトウでしょうか。キャンパスには先の2つが幾つか植わっています。野原と夏の暑さから目に浮かぶのはエノコログサやオヒシバです。どちらも子供のころ手にとって遊んだことがきつとあるでしょう。エノコログサの猫じゃらし、提灯、そしてオヒシバの草相撲などがありました。



＜ムクゲ＞

＜横綱＞暑さに負けず元気なのが雑木林の昆虫です。その中でもカブトムシとクワガタは東西の両横綱ですね。幾つになっても彼らを見つけると少しわくわくします。ところで日本にはクワガタの仲間は40種ほどいるようで、私たちも何種類かは目にしています。一方、カブトムシの仲間は2種だけとのことです。確かにカブトムシはカブトムシ…。



＜エノコログサとオヒシバ＞

＜なるほど＞雑木林の明るいところで実を付けているヤマブキを見つけました。春先に一重の花を咲かせていたものです。道灌伝説でヤマブキは実を付けないと思っていたのですがそれは八重のヤマブキだけとのことでした



＜カブトムシ＞



＜ノコギリクワガタ＞

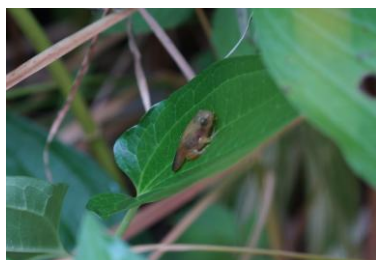
(ピオトープの四季 No.4 参照)。納得です。

＜出世ガエル＞シュレーゲルアオガエルの赤ちゃんを見ぬままに今年も過ぎるかと思っていたところピオトープの池に次々と姿を現しました。尻尾を付けオタマジャクシに近い色をした“半人前”のや、姿は“一人前”ですが色はまだ緑になり切らないのや、小さいながら色も体つきも立派なアオガエルとなり「刮目(かつもく)して百年の後を見ん! (注)」といわ



＜ヤマブキの実＞

んばかりの姿でハンゲショウの葉に行儀よく座っているものもいます。幼体になってからの変化が激しいカエルのようなですね。昔から人々の暮らしと密ならば“出世魚”ブリのように“出世蛙”と名が付いたやも知れませんか。



(刮目して---) “よく目を開いて将来を見据えよう” <シュレーゲルアオガエルの出世順! > (文と写真：松本正勝)